



祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.82

毎月1日号に掲載

ックに向けて選手強化プログラムもより推進可能となるだろう。さらに合併に向けての手続きや今後のスケジュールの説明があり、平成31年4月から新財団はスタート予定だ。

福山市スポーツ協会

6月議会にて、いずれも公益財団法人である福山市体育協会と福山市体育振興事業団、福山市青少年育成事業団の3財団合併について質問した。体育協会は市内78学区体育会と31競技団体を束ね、今年で創立百周年を迎える歴史と伝統ある民間団体であり、その母体の創立者はくろがね屋当主の藤井興一右衛門氏だ。

さる4月4日、体育協会の加盟団体会長会議が開催され、福山市岳会の会長である私も出席した。そこで天野会長より3財団の合併についての考え方が示された。新財団の名称は福山市スポーツ協会であり、目的は福山市のスポーツ団体の統一組織としてスポーツを推進し、市民の体力の向上を図り、スポーツ精神を養うとともに青少年の健全育成及び若者の自立を促すと説明があった。東京オリンピック・パラリンピ

さて市議会だが、体育振興事業団と青少年育成事業団は市の外郭団体であり、体育協会との合併は福山市において前例のない官民の合併と言える。どのような組織体制となるのか？合併による効果は？といった質問を行い、枝廣市長は「新たな発想により大規模スポーツ大会を誘致したい」と意気込みを表明された。私は新財団によりコース設定が不評な福山マラソンを、竹ヶ端から韮ヶグリーンラインを走るコースを採用すれば、ハードだが風光明媚なコースが人気を博すだろうと提案した。また、競技種目を絞った選手強化も必要であり、今までの実績を考えれば対象種目は競泳と飛び込みだろう、ローズアリーナ飛び込み台を屋根で覆い通年使用可能とし、新たな50m温水プールの建設の検討も要望した。

天野会長は、合併により官民一体でいかにしてスポーツ人材を育て、且ついかにして人材が郷土に愛着を感じる風土を作り上げるか、と意欲を燃やしている。